初志貫徹

学校教育目標
夢と志をもち、実現に向かって
自ら努力し続ける生徒の育成

「孝弟なる者は、其（そ）れ仁を為（な）すの本（もと）。」【論語】は、「父母に孝行し、年長者に従順であることは、孔子の言う最高の徳目である仁（いつくしみの心）を行うための根本である。先日の卒業式でも３年生が親さんへの感謝の気持ちを表していました。

八代市立第四中学校だより第１３号
令和６年３月２５日
文責　校長　沖田　龍藏

「四中プライド」を感じた素晴らしい卒業式から伝統を受け継ぐ1・2年生へ！

３月８日（金）の卒業式は、３年生が保護者や地域の方々に感謝の気持ちを素晴らしい歌声と態度で表してくれました。このよき四中の伝統を受け継ぐ在校生の態度も立派でした。２年生の式準備や後始末の手早さにたのもしさを感じたところでした。先週の金曜日に八千把小学校の卒業式に参列してきましたが、６年生の素晴らしい歌声と立派な式中の態度を見ながら、益々四中がよりよい学校になっていく気がして、次年度も楽しみだなと思った次第です。

３月１４、１５日は好天気に恵まれて１年・２年クラスマッチを実施できました。体育館やグラウンドで歓声が響き渡っていました。現クラスでの最後のクラスマッチだったので、仲間との絆が一層深まったことでしょう。１７日は本校で第３３回吹奏楽部定期演奏会が開催されました。八千把小学校吹奏楽クラブの児童やＯＢ、ＯＧの皆さんが体育館ステージで、たくさんの地域の方々への感謝の気持ちを素晴らしい演奏で表していました。これは四中吹奏楽部のよき伝統を感じさせるイベントでもあります。

１年間を振り返ってみますと、多くの四中生が学習と部活動や社会体育、文化活動に、夢（目標）と志をもって、自ら努力し続けていたと思います。私たち教職員も生徒の成長ぶりを感じるほどに、「四中で働くことができて本当によかった。」と思います。私も人生を振り返れば、教職を目指したきっかけは、母校（高校）でのわずか２週間の教育実習での後輩たちとの出会いと今でも親交のある高校の恩師のお陰です。高校入学当時は、意気揚々と「文武両道」を目指していたのですが、成績順位に惑わされ過ぎて、中学までは地道に努力していたのに、勉学から逃げてしまい、挫折しました。夢（目標）や自信をなくしていた頃に、高校生活に微かな光を見出せたのは、見捨てずに関わっていただいた恩師の存在でした。恩師との出会いがなければ、教職を目指すことはなかったと思います。それと親友、部活（ハンドボール）、ロック（矢沢永吉、甲斐バンド）等の音楽には今でも随分励まされています。夢や自信を見失いかけたときこそ、「努力は必ず報われる」と信じ、自ら逃げずに、もがき続けることと友人や家族の支えがあれば、どうにかなることを学びました。

「令和6年度四葉会新役員紹介」２月７日の四葉会定期総会でご承認いただきました新年度の役員さん方です。橋本四葉会長はじめ、令和５年度に引き続き、役員の方もおられますが、保護者の皆さん、本部役員の方々と「チーム四葉会」で本校教育へのご理解・ご協力をよろしくお願いします。

会長　橋本　秀嗣さん　　副会長　久保田　誠志さん、岩城　昭典さん、濵﨑　康児さん、緒方　由佳さん、谷口　麻美さん、上村　和寛さん　　書記長　鮫島　利恵子さん
書記　山下　清子さん　会計長　黒木　美貴さん　監査長　湯野　太さん、監査　中村　潤さん